

妊娠届を活用した保健師を支援するアプリの開発

研究開発プロジェクト

妊娠期から虐待・DVを予防する
支援システムの確立

児童虐待やドメスティック・バイオレンス(DV)の効果的な予防対策は確立されていません。
ハイリスクの妊婦に対応する保健師を支援するアプリ「そだつWA」を開発しました。



研究代表者

東京医科歯科大学 国際健康推進医学分野 教授

藤原 武男

概要

児童虐待やDVは増加傾向にあります。その効果的な予防対策はまだ確立されていません。その理由として、ハイリスク妊婦の抽出方法が不明確で介入効果の評価ができないこと、支援に対して拒否的なケースへのアプローチ方法が確立していないことがあげられます。

本プロジェクトでは、妊娠届を電子化することに成功した東京都足立区をフィールドとして、ハイリスク妊婦を抽出する既存のアルゴリズムを精緻化しました。加えて、妊娠期からの保健師による家庭訪問などの支援に用いるアプリ「そだつWA」を開発しました。そのアプリを用いてハイリスク群に対する虐待予防システムを確立し、足立区において実証実験を行い、その費用便益効果も確認しました。

保健師支援アプリ「そだつWA」



研究開発の成果

支援アプリ「そだつWA」では、個人情報保護、情報セキュリティに配慮した上で、妊娠届の情報から抽出したハイリスク妊婦に対して、支援を行う保健師が動画などを用いたコンテンツを提供し、その視聴履歴を確認することができます。費用便益分析の結果、医療費だけを考えてもこのシステムの費用便益は大きいと考えられました。また、他にも汎用可能な成果として、支援に拒否的な妊婦に対して動機付け面接の手法を用いたトレーニングモジュールも開発しました。さらに、妊娠届の情報から妊娠中のDVを予測する尺度を作成しました(特許申請中)。これにより妊娠中のDVの有無を妊婦本人に直接聞かずに把握することができるため、潜在的なDV群を保健師が把握でき、事態が悪化する前に介入できる可能性が示されました。

成果の担い手・受益者の声

担い手

「そだつWA」を使うことに最初は戸惑いがあったが、実際に使ってみると妊婦さんはすんなりとタブレットの画面をみてくれました。普段はこのような絵や動画のついた資料は持ち合わせていないので、効果があると思いました。(保健師)

受益者

「そだつWA」は、解説を自分のペースで見れることや、イラストがかわいいこと、色合いがかわいいこと、説明がわかりやすいこと、音声が付いていることでイントネーションや速度までわかるところがよい。(看護学生)

成果の活用場面

- 保健師がハイリスク妊婦を支援する際に活用できます。特に比較的経験の浅い保健師がハイリスク妊婦の家庭訪問に行く場合などに活用していただくと効果的です。
- 保健師教育や研修で最新のエビデンスに基づく支援方法をアプリを使って学ぶことができます。
- 助産師外来での妊婦支援に活用することができます。

目指す社会の姿／今後の課題・展望

全国的に見れば妊娠届の電子化はまだ進んでおらず、情報共有とそれに基づく効果的なハイリスク妊婦の支援ができていない現状があります。支援のあり方についての標準化の課題も残ったままです。そこで、全国の自治体の保健師が妊婦への支援において「そだつWA」を活用し、「そだつWA」を用いた保健師の教育により、支援を望まない妊婦へも確実にアプローチすることができるよう、「そだつWA」の全国展開を目指します。これにより、ハイリスク妊婦をより確実に同定し、ハイリスク妊婦に対して標準化され、かつ効果が確認されている育児支援コンテンツを届けられることを可能にし、妊婦および育児中の母親へのDV、産後うつ、虐待が減る社会を目指します。

内容に関する問い合わせ先 | 国立大学法人東京医科歯科大学 [連絡先] fujiwara.hlth@tmd.ac.jp

事業に関する問い合わせ先 | 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センター(RISTEX) [連絡先] pp-info@jst.go.jp
成果の詳細はウェブサイトにて https://www.jst.go.jp/ristex/pp/project/h28_3.html

本研究開発は、国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域による研究開発成果の一部である。【発行元】JST/RISTEX「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域(2020年3月時点の情報です)